

窓辺

おだぎともこ
小田木朝子

夏の親子出社

長女は小学3年生。先日、学童のお休みに私の職場への親子出社にチャレンジしました。

同じ小学3年生の同僚の娘さんも親子で出社。朝は2人とも緊張の面持ちでしたが、すぐに仲良くなり、お昼は社長と回転ずし、午後はママ2人の市役所での打ち合わせ時に浜松城公園で遊び、最後は1日の終わりを惜しむほどでした。

預け先がなく、打ち合わせなどで在宅勤務も出来なかったこの日、受け入れてくれた職場に感謝しつ

つ、大人ばかりの環境で貴重な体験ができました。

「ママはお仕事をしている」と分かっていても、イメージが持てていなかった

娘。1日一緒にいて、家から会社が思いのほか遠いこと、会社で皆パソコンに向かって仕事をしていたこと、ママたちが市役所で笑いながら打ち合わせしていたこと（なんと内緒でのぞきに来ていたとのこと）、たくさん発見があったようです。

小さい頃は、娘のことで知らないことはなかったよ

うに思います。でも小学生になって感じるのは、もうこの子なりに考えていることがあって、その全てが親に語られるわけではないし、親が知らない体験をたくさんしているということ。つらいことがあっても、親はそれも全ては知れないのです。

ずっと赤ちゃんで手がかかると思っていました。そうではありませんでした。子どもを何でも把握して、守ってあげられる期間が過ぎてしまったとしたら、次はどんな関わり方、支え方がいいのだろうか。娘の成長を実感しながら、そんなことを思案しています。

（育勉普及協会理事）